

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	愛の家グループホーム岐阜正法寺
（ユニット名）	ぼたん
所在地 （県・市町村名）	岐阜県岐阜市正法寺町9番地
記入者名 （管理者）	鷲尾 亜樹奈
記入日	平成 20年 1 月 18 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念からしっかりと各自で把握するように呼びかけ、実行できる事から進めるようにと指導している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	相手の立場に立って相手の気持ちを理解し合え、共感を大事に考え、理念の実践に向けて日々取り込んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進委員会を通して、地域の協力が無ければ出来ない事に対して、普段からの協力をお願いできるように繋がりや交流を大切にしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出の際、近場のお店の利用を心がけ、積極的に挨拶などで話しかけ、利用者様とできるだけ一緒に出かけるように努めている。	○ 近隣との関わりをさらに深めると同時に、交流をさらに深めて行きたい。特に、学校や幼稚園などと考える。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われている、町内の祭り等に参加させて頂いている。また、こちらからも行事等がある際は声掛けさせて頂くよう努めている。	○ 今以上の呼びかけをし、グループホームの理解をして頂けるように、尚一層の交流を持ちたいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	常に話し合い、より良い生活しやすい環境を作っていく事を心掛けてはいるが具体的な支援についての取り組みは出来ていない。	○	どのような取り組みがあるのか話し合い、地域の方からの情報を聞かせていただけるよう取り組んでいきたい。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価実施の意義を理解しているわけではない。会議等で外部評価の意義や評価に対しての改善への取り組みを説明している。	○	外部評価を行う意義の説明を行い、理解を深めていきたい。また評価をどのように活かしていけば良いのか話し合いを持ち取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームをより理解していただくため、ホーム内での活動報告を中心に行っている。地域の方、地域包括支援センターの方にも参加していただき意見交換を行っている。	○	家族様からの意見を聞く事のできるよい機会として活用していきたい。意見の出しやすい雰囲気作りに努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各報告等での連携は図れているがその他での連携がなかなか取れていない。	○	市町村担当者の方と勉強会等を開催し交流を持てるよう努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が取れていない。必要性、関係者との話し合いについては管理者が行っている。	○	どのような制度があるのか、ホーム内の会議の時間を使い学ぶ機会を設けていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待への理解は全職員意識は高く、日々の業務の中で虐待に繋がる物を考え、入居者様の気持ち等を大切にしていけるように、職員同士が声掛けし合えるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、家族様や入居者様と面談し、入居者様のアセスメントに管理者や、ケアマネ、フロア責任者が付き添い、不安なく理解して頂けるようにお話し、家族様の話しも傾聴にお聞きするように努めている。退去の際も同様に、何事にも慎重に行いお互いが納得できるように勧め、行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の中にはなかなか意見を言えない方もおられるためさりげなくお聞きするようにしている。また、意見の言いやすい雰囲気作りに努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話に限らず、面会時に話しおする時間を設ける事や、手紙などで生活状況を知って頂いたり、行事を行った際には写真を通して報告をして行きたいと思っている。現状でも、少しずつではあるが実行している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、苦情窓口を設けて日々、取り組んでいるが中々言えない苦情を言いやすい場を作り、家族様との交流を大切にし、また家族様から出た意見を大事にしたいと思っている。ご家族様から出た相談や苦情、意見は慎重に受け止め同じ事を繰り返さないよう一人ひとりが心がけるよう努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議などを設け、現在のサービス内容の見直し、一人ひとりの考えを出し合い話し合っている。すぐに反映できることとでないことはあるが、意見を取り入れながら行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通院に行く際には、受診に行ける職員を事前に確保し、また行事を行う際には事前に調整し、職員の確保を行っている。職員同士が協力し合い、入居者様に楽しい場の雰囲気作りに心がけている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者様と職員の信頼関係を大事に、各フロアの交流の機会を作り、入居者様に話し掛ける事で認識して頂き、その場を大事にするように行っている。また、その交流を継続できるように心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修がある際には呼びかけ、参加して頂くようにしている。またなかなか研修に参加できない場合は業務を通じて、管理者、ユニットリーダーが中心になり指導を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などを通して同業者との交流がある時もあり、情報交換をする事お互いに参考になり、参考になった事を実践する事でサービスの質の向上になるようにと努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	話しやすい環境作りを心掛け、職員の変化等に誰よりも先に察知できるように努めている。相談をして来た際には、傾聴に聞き入れ、その場を大事にするようにし、持続して相談しやすい環境を作り上げるよう努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	得意な分野にどんどんチャレンジしてもらい、一人ひとりが伸び伸びと業務してもらえるように努めている。	○	今後は得意な分野だけではなく、苦手な分野にもどんどんチャレンジしていけるように呼びかけたい。チャレンジする事で自分に身についてもらえるよう指導したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前にお会いし、お互いの話を聞くことで安心し、不安なく入居して頂けるように努力している。また、入居する前の生活リズムや友達との交流などもお聞きし、入居後の不安の解消に努めている。	○	できる限りご本人の要望に応えられるよう努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	全体的に配慮し、どんな事で困っているのか、悩んでいるのか、話しやすい場を提供し、施設側から不安の無いように十分な説明をするように努めている。	○	入居後も家族様と施設側の情報交換を大切にし、常に連絡を取れるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族様からお話を伺い家族様とご本人様の要望をなるべく聞き入れるようにしている。	○	お話を伺った際に、メリットやデメリットを同時にこちらからお話させて頂けるように説明等をしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	コミュニケーションを大切にし、ご本人がどのような時に不安になられ、どのような言葉がけで安心されるのかを理解できるよう努めている。また、ご家族様とも頻繁に相談、協力をしていただきゆっくりと時間をかけ馴染んで頂いている。	○	自宅で生活していた人が施設へ入居され団体活動となった時は、混乱されることが多いため、少しずつ慣れて頂ける為に、どんな場合でもすぐに対応ができるように努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的に介護するのではなく、一緒に物事を進めることで信頼関係を作り上げ、時には過去に振り返れるように日頃から築きあげている。個々の残存機能を生かしその方のペースにて生活できるよう常に心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族様からお話を伺い家族様とご本人様の要望をなるべく聞き入れるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族様に相談し、ご本人様の現状をお伝えし、本人様の意見ならびに家族様の意見を取り入れて、業務に取り組んでいる。	○	コミュニケーションを大事にし、一日の変化や、いつもと違った仕草をした時は、職員同士で情報交換し合い、その情報交換した事を家族様にも伝えていけるようにしたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所への外出や、手紙、電話等で関係を保てるように努めて、提供している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が間に入り、上手くコミュニケーションが図れるように努めている。	○	日々の観察を大切にし、少しずつ打ち解けて頂けるようにしたい為、今後の課題とも考えられる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的に関わりを持ちたい方には、こちらも気持ち良く引き受けさせて頂き、何かの点で役に立てるように、終了しても付き合いを大切にしている。	○	終了後でも、どのような要望や意見があるのかをお聞きし、把握していきたい。生かせる所では活かしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様、本人様がどんな事を要望されているのか、何を思っているのか、何を望んでいるのかを理解するようにしている。	○	職員が入居者様の立場に立って物を考える事はスムーズに行く場合と行かない場合が様々である為、常に人の立場に立って物事を考えて行く事を大切にしていきたいと考える。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前はどのような生活をしていたのか情報収集し、馴染みのあることをできるだけ提供するようにしている。	○	その場限りで終わってしまう傾向がいくつかみられがちなのが現状です。継続していけるように、難しい事からではなく、自分たちが行える事から取り組んで行きたいと考えている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	不安なく安心感も持って気持ち良く、伸び伸びと生活して頂けるように、個々のペースを大事にするように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンス等を利用して話し合う事で、それぞれの意見をまとめ、反映させながら介護計画を作成している。	○	フロアの職員で親身に話し合い、親身に話し合いした事を文章化にし、介護計画が良い方向に進むよう努力していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合は、すぐにメモに残し、職員同士で相談し合い、管理者へ報告している。必要に応じて、家族様にも連絡を入れるようにしている。メモを元にし、ケアプランへ盛り込むよう作成している。	○	ケアプランの書式が変わり、気づきやメモとして使用する用紙が増えた事を上手に活かして、作成に望んで行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな事でも変化や、いつもと違った様子が伺えた場合はすぐに記録へかくようにしている。またカンファレンス等で情報交換を行っている。	○	カンファレンス等で記録を参考にしながら行っていきたい。また伝わりにくいこともあるため記録の書き方や文章等の勉強も取り入れていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性を活かした支援は難しい問題ではあるが、できるだけ、その時の要望に応じられるように柔軟な支援を行っている。	○	どんな事に多機能性を活用すればよいのかを勉強し、取り入れていくのか情報収集する必要があると考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアの方に入っていただき支援を行っている。ボランティアの方と接する中での新しい発見や必要性に対してどのような支援があるのか話し合っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進会議の際、地域包括支援センターのケアマネジャーの方とお話をする機会はあるが、その他での話し合いはできていない。	○	他のサービスを利用するためには、どんな支援をしていかなければいけないのかを情報収集する必要がある。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の際、参加していただき指導をして頂いている。しかし権利擁護や長期的なケアマネジメントについては話ができていない。	○	地域支援センターとの交流を持ち、総合的なケアマネジメントについての協働ができるよう努めていきたい。またどのように進めていけばよいのかを指導を受けたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様や本人様の意見を尊重し、医療との連携を上手く行うように、できる限り希望が叶うように支援している。また体調に変化があった時は受診、往診をしていただけるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医に相談する事は難しい事ではあるが、往診に来ていただいている先生に一度相談し、指示を仰いでいる。	○	受診等の機会を通して、相談や連携を取っていけるようにしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期的に看護師にホームへ訪問していただき、健康管理、相談をしている。医師との連絡、指導を受けている。安心して生活していただけるよう常に連絡が取れるようになっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけの医師に相談し、病院との情報交換に努め、情報交換をした結果をご家族様へ連絡し、常に連携を取っている。	○	入院した場合は定期的な面会にて心細さを和らげ、面会にいけない家族様に代わって着替え等を届けるように行っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師からのお話を家族様にありのままをお伝えし、今後の話し合いを行い、また職員の会議を開いて計画を立てている。	○	施設での終期末を望まれた場合、希望に添えないこともある為、十分な説明を行い理解して頂く。(例:医療行為)職員の専門知識を今以上に深めていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常に医師との連携を取り、まんがいちの事も考えいつでも相談できる体制を作っている。ご家族様の意見を取り入れながら、話し合いを行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族様、本人様共々に不安感を与えないように、傾聴な聞き入れと説明を行い、話し合いをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人に応じた声掛けや言葉使いに注意して業務するようにしている。記録、個人情報についてはファイルに閉じ、保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人様の希望が自由に表現でき、表せれるような雰囲気作りを心掛けている。その方が理解しやすい言葉がけを行うよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活リズムをよく知り、理解することに努めている。レクリエーション、行事等にお誘いする際には選択しやすい言葉掛けでお誘いし、自己決定ができるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に二度、床屋さんに来て頂き、事前に来ることをお伝えし希望された時は、利用して頂くようにしている。理容・美容に関しては、皆さんとても活発的である。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食やおやつ作り、普段からもお手伝いを自由に出来る環境作りに励んでいる。	○ 好き嫌いを言える人と言えない人が中には居るので、しっかりと配慮し楽しんで頂きたいと思います。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病名や医師から言われている事を把握し、その人に合ったおやつ等を提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを一人一人がしっかりと把握し、誘導をする事によって失敗を減らしている。また、仕草を読みとめるようにしている。	○	プライバシーを守り、失敗した事で本人様が落ち込まないように声掛けする事を指導している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人様の希望を聞き入れる事もあるが、入浴される確立を把握し、こちらから進める場合もある。	○	入浴が嫌いな方もいる為、嫌いだから入らなくても良いではなく、ある程度の声掛けと、清潔保持を持って頂けるように呼びかけている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後など休息の時間を提供している。その日の体調や表情を見てこちら側から声掛けを行い横になっていただいている。夜間は個々の就寝時間の把握、室温の管理を行い安眠できるよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ある程度の楽しみと役割分担を持つ事で、淋しさがまぎれたり、落ち着かなくなった人に役割を提供する事で気持ちがすっきりすると考え、得意分野の役割を提供するようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方についてはご本人にお金を所持していただいている。また家族様にもお話をし了承をいただいている。財布を持つことで安心、また生活感を持つことができるため今後も支援していきたい。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物を希望された時は、時間の都合が付く限り同行し気分転換を図って頂いている。また、季節間を肌で感じて頂くようにしている。	○	家族様と一緒に出かけられる機会を多く取り入れたいと思っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族様に依頼をしたり、行事として行けるように持ちかけ、出掛ける機会を多く取っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を望まれた時には、家族様の帰宅時間帯を把握し自由に掛けられるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問して頂けるような雰囲気作りに努めている。居室でお茶を飲んでいただいたり、食事を一緒にしていただいたりしている。その際、職員は必要以上の訪室を避けゆつくりと過ごしていただくようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを作成している。どのようなことが拘束になるのかを学び、身体拘束のないケアに努めている。	○	職員の知識の差が出てきている為、勉強会や、研修に参加するよう呼びかけていかなければいけないと思っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	フロアの出入り口は開放状態にしてあり、居室も鍵はかけておらずいつでも出入りできる状態にある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間時は妨げにならない程度に巡視を行い、日中での見守り等を行うようにし、十分な配慮を心掛けている。	○	妨げになる事で生活パターンや、本人様の体調等が崩れる場合もある為、気を付ける事を指導している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご自身で管理が出来る人には、目薬や湿布をお預けるしている。またどなたが何をご自分で管理されているかを把握し、自己管理が不可能であると判断した場合はこちらで預かっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒を防ぐ為に、靴を替えたりと随時工夫を心掛けている。身体状況を常に把握できるようにしている。精神状態にも気を配り、夜間は十分な巡視を徹底している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	知識の差が出てきているのが現状にあげられている為、いつもと違う様子が伺えた場合はすぐに報告し、相談するように呼びかけている。入居者様が出している信号を見逃さないようにしている。	○	緊急時の対応の勉強会を行い、全員が把握して対応できるようにしなければならない。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を通じて災害時の対応についての協力をお願いしている。	○	地域全体の方をお願いが出来ていないため、自治会行事などに参加させていただき、理解を深めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	事前に説明を行い、家族様と相談しながら行い、時には、家族様の協力を得られるよう日々、努力している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日二回のバイタルチェックを行い、体調不良者をしっかりと把握し再度測定や、水分補給を欠かさずに行うようにしている。症状が続くような時は医師の指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用等をしっかりと把握し、間違えの無いようにと呼びかけている。また、薬を服用しても症状がよくなる時は、すぐに医師へ連絡をとうようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便パターンを把握し、便秘に効果的な運動を進めたり、便秘薬を希望される方にはお出ししている。効果が表れない方については、医師への相談の元、薬を処方して頂く。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの呼びかけを行い、職員が見守りさせて頂いている。ご自身で気にされる方は、時間関係なく磨いている姿も見られている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食後、記入を欠かさず行い、食事が上手くとれない方には、栄養の水分をお渡しするように徹底している。また、食事以外に口にされた物なども、別紙のチェック表にて記入し、把握をしている。	○	水分を中々取ろうとはされない方が多い為、脱水状態等を防ぐ為に何かしらの対応を今、以上に考えなければいけない。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種や、感染症に関する資料を提供している。感染症マニュアルを作成している。外出から戻った際、手洗いとうがいをしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理や、手洗い、うがい、消毒の声掛けを徹底して呼びかけている。台所は調理職員が毎日、掃除、消毒を行い衛生管理をしている。食品管理も徹底して行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節や行事に合った飾り物を置く事により、家族様へのアピールともなるため、実施するようにしている。出入りしやすい場の雰囲気作りを強化している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花などの写真を飾る等として、華やかに見せて清潔感のあふれるように努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや、畳みの部屋を用意させて頂きいつでもくつろげる状態になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた使い馴れた物を持参して頂き、本人様が納得の行く、生活しやすいようにして頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者様がフロアにみえない時は、換気を十分に行い、起床時も本人様の許可を得てから、換気を行うようにし、室温度にも気をつけて管理している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方でも自由に暮らす事ができ、不便なく平らで、全てのドアが開けやすくなっている為、転倒や事故等も防ぐ事ができている。	○	居室の家具の配置やフロアでのテーブルの配置にも配慮しより安全で快適な生活を提供していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常に混乱を防ぎ、入居者様に合った声掛け等を実施するようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	近隣には、高校の設備もある為、交流を目指しながら外へお誘いしている。また、ベランダは洗濯物を干す時のみ、使用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様に適した個別ケアを強化している。どのようなことで喜んでいただけるか、常に入居者様が優先であり、入居者様の立場になって物事を考えることを忘れていけないと思っています。どのようなことを私たちが提供していくのかをじっくり考えていきたいと考えています。個々の得意な分野を入居者様だけでなく職員も一緒になって毎日が楽しく生活していけるよう取り組んでいきたいです。事業者の中でもっとも自慢でき、笑顔を絶やさないフロア作りを目指しています。